

平成30年度 加納中学校 学校経営計画

学校の教育目標『自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を持つ生徒の育成』

学校経営 ビジョン	「生命（いのち）を大切に作る学校」「楽しさを実感できる学校」を柱に、チーム 加納中として、学校、生徒、保護者、地域の強み（よさ）を生かした教育活動を推進し、昨年度よりワンランク上（120%）を目指す。
--------------	--

【自己評価書】 4段階評価：4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【学校関係者評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
知育	授業力を高め、学力を向上させる。	生徒による学校生活アンケートで、「わかる」「楽しい」が80%以上である。	・学力の定着と向上を図るために「学びのサイクル」に基づいた授業の展開を、どの教科においてもおおむね統一して実施する。	3		生徒アンケート：「毎日の授業がわかる・楽しい」3. 4段階 83% 目標はおおむね達成しているが、学力の個人差が大きい面もあり個別指導が必要である。そのような個に応じた指導ができる時間の確保が課題である。		・わからないまま授業が進んでないか気になります。 ・英語や数学においては少人数での授業をしており、より多くの生徒にあった授業に取組んでおり継続していただきたい。 ・生徒の立場から毎時間の授業が「わかる、楽しい」を実現することは学習指導を行うプロの教師として最も基本的なスキルである。生徒、先生、保護者によりアンケート結果は8割を超え、所期の目標を課しており大変評価である。個々の生徒の学び方の具体的方法を日々工夫改善していく努力は必要である。 ・学年が上がるに伴い「そう思う」という生徒が増えている。この取り組みを続けてください。 ・83%の割合を示す、加納中の生徒の理解力は素晴らしいなと思います。
	全職員が一人一授業を実践し、職員間で指導内容や指導方法を共有し、指導力を高め合う。	生徒による学校生活アンケートで、「わかる」「楽しい」が80%以上である。	・ICTの活用や学習課題の明確な提示など、授業改善を行う。 ・校内研修と連携し、全職員が1回以上の研究授業を行い授業力向上を目指す。	3		各教科で適切な場面でICTを積極的に活用している。また、「しっかり理解する」「じっくり考える」「はっきり表現する」の提示カードを作成し、授業の中で生徒に明示している。 11月より一人1授業を行い、授業力向上を目指して職員一同が取り組んでいる。	3 3 3	・生徒が授業に興味をもつような工夫をされている先生をみる事ができた。今後、より多くの先生に対しても同様な取組を期待したい。 ・主研究に係る教師団の組織改善を図り研究の方向性を明確にして授業改善の実践研究を行っていることは大変評価できる。特に学年軸と教科軸のマトリックスを組み「学びのサイクル」を授業改善に基本を据えて研究授業を行っていることは素晴らしい。 ・継続をお願いします。
	学習規律の徹底を図り基本的な学習習慣を確立させる。	・生徒による学校生活アンケートで『「2分前着席」「1分前黙想」など学習ルールが守られている』が90%以上である。	・年度当初に学習指導集会を開き、生徒に取組の説明を行う。 ・学習委員会の活動を活性化し、生徒の自治的な活動を通して学習規律を向上させる。	2	3	年度当初の学習指導集会で、加納中の学習への取組に関して説明し、生徒、教師ともに共通理解を図った。 学習態度に関する点検活動や呼びかけに、学習委員会を中心に積極的に取り組んできた。しかし、生徒アンケートでは評価が80%と数値目標を達成することができなかった。	3 4 3 3 3 3	・授業に集中するために必要な「2分前黙想」「1分前黙想」が、ほとんどの生徒で守られており学習習慣が確立されている。今後もより一層取組をお願いしたい。 ・生徒アンケートでは、1年生の数値の結果が2、3年生に比べて低い。これは中学校の生活経験が少ないことを係る原因と思われる。小中一貫教育の中で中1ギャップを少なくする観点から一層の小中連携と教育指導の一貫性の質を高める必要があると考える。 ・1年生に対して積極的な啓発が必要でしょうか。 ・学習規律の徹底を授業の始まりにポイントをおいているのが良いと思います。（始め良ければすべてよし）多忙な先生方が着席、黙想が見守れるよう率先して教室に向かうことで数値目標は上がるでしょう。頑張ってください。
	家庭学習を充実させるための手立てを講ずる。	・生徒、保護者による家庭学習アンケートで「家庭学習が充実している」が80%以上である。	・意図的、計画的に課題を出したり、課題の内容を工夫したり、保護者の協力を得ることにより家庭学習の習慣化を図る。 ・授業の楽しさを実感できる授業を展開し、一人でも学べるように勉強の仕方を指導するなどして、「家でも勉強したい」という意欲をもたせる工夫をする。 ・宅習内容の充実を目指し、日々点検や指導を行う。	3		家庭学習への取組は、各学年ごとに個に応じて指導をしている。各学年で定期テスト範囲を早く出し、家庭学習に積極的に取り組むことを促している。家庭学習への取組には個人差が大きくあり、家庭との連携が必要であると考えられるため、教育相談等を活用しながら協力して継続指導していくことが必要である。 良い宅習内容の紹介や学習委員会による点検等、宅習内容の充実を目指したが、個人差が大きく、個別指導の必要性がある。	3	・宅習ノート、課題等の提出も良好であり、今後も家庭学習の積極的な取組を促すためにも定期テストの範囲を早めに出すことは効果的だと思う。 ・学習の能力差は、個々の生徒の努力による定着の時間差で補うことができると考える。能力差に応じたスモールステップをモデル化して学習内容の定着化を図る必要がある。家庭では、個別に時間が確保できるため個に応じた創意工夫のある宅習方法の構築が早急に求められる。学校の授業と宅習が一体化された個々の生徒の宅習モデルの構築が大切と思われる。個人差に応じた校内の指導体制づくりはとて大切である。 ・継続した取り組みをお願いしたい。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
徳育	心の教育を推進し、生徒の規範意識の醸成を図る。	・生徒による学校生活アンケートで『生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす』が85%以上である。	・朝の会・帰りの会を使い、委員会活動や生徒会活動を活発化し、スピーチ活動を行うと同時に賞賛の場を多く設ける。 ・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。	3		アンケートによると、3・4段階が79%と目標にやや届いていないが、学年が上がるにつれて肯定的な割合が多くなるので、粘り強くよさを認める指導を続けたい。また、そうではない1・2段階の生徒が81人いたことに注視したい。授業時も含めて、一人一人のよさを生かし個別に支援していくことや、生徒との対話の機会を増やす必要があると考える。		・資料では先生は取り組んでいると思っても生徒はそう思っていないようです。 ・「生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす」についての生徒アンケートが85%以上の目標に対して79%であった。昨年84%より低くなっている。生徒との対話、生活の記録を用いた心の教育をお願いしたい。また、「あまりそうは思わない」先生については、研修をするなど意識改革が必要だと思う。 ・生徒一人一人のよさや可能性を見抜く教師の力を高めることはプロとして極めて重要である。アンケートの結果の1、2段階の生徒への温かい配慮も大切である。常に生徒の気持ちにしっかり寄り添って個々の生徒の自己肯定感を高める指導力をしっかり身につけるよう努める必要がある。 ・一人一人の個性をとらえ更なる個別支援をお願いしたい。 ・日常の学校生活の中で、一人一人に目を向けるのは、大変ですが、一人一人が存在感を感じ肯定感もてる自信ある生き方が身につくように生徒とのふれあいを多くもってほしい。
	Q-U検査の結果をもとに、全職員で生徒一人一人に適切な指導、支援を行う。	・分析結果で学校生活満足群の生徒の割合が60%以上、不満足群の生徒が10%未満である。	・学級の状況を分析し、指導と生徒の状況のマッチングを図り、具体的手立てを研修を通して学ぶ。また、学年全体で注意すべきことを共通理解・共通実践をしていき、満足群が増え、不満足群を減らすための努力を行う。特に1年生では2回調査することで、変容を見る。	4		Q-Uの6月集計結果によると学校生活満足群の生徒の割合が1年57%、2年64%（昨年54%）、3年71%（65%）で、不満足群の生徒が1年16%、2年14%（昨年17%）、3年11%（15%）いたが、昨年度より改善されている。客観的データを踏まえて夏季休業中にも研修を行い、指導と生徒の状況のマッチングを図る努力や学級づくりを継続して行っている。1年は2回目の検査も行い、更なる改善を図り、来年度以降も継続して取り組んでいきたい。		・良くできていると思います。 ・学校生活満足群の生徒の割合が増えていくように更なる改善を図り継続して取り組んでください。 ・学級集団において、どのような社会性が構成され、どのように変化しようとしているかなど、科学的な根拠に基づいた方策で分析していくことは極めて大切である。本校は昨年度より、継続的にQ-U研検査を実施されて少しずつ成果を上げていることは大変評価できる。客観的なデータに基づく具体的指導ができていてとても素晴らしい。 ・継続をお願いしたい。
	SCやSA、SSW等と連携し、いじめ、不登校等の未然防止と早期解決に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『先生は気軽に相談に応じている』が85%以上である。 ・不登校数の減少を図るとともに、新規不登校者を出さないようにする。	・教育相談の時間をしっかり設定する。 ・いじめ防止基本方針を見直し、職員の共通理解を図る。 ・SCやSAの活動を啓発し、保護者を含めた相談を増やしたり、場合によっては、SSWの協力を得ながら対応する。	3	3	アンケートによると、3・4段階は80%であり、相談にはほぼ応じている状況である。しかし、生徒からの相談の要望は多くないようである。自分から悩みを相談するような援助希求の態度も育成していく必要がある。また、保護者相談を行い、SCを初め専門機関とも連携を図るなど、いろいろな対策を講じているが、抜本的な改善に至らず、不登校者は減少していない。今後も粘り強く対応していきたい。	3 3 3 3 3 3 3 3	・SAを採用しても不登校者が減っていない。 ・「あなたは、生徒の相談に気軽に応じていますか」に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」先生については、研修をするなど意識改革が必要だと思う。 ・不登校数の減少に向けて苦勞しながら取り組んでいると思うが、粘り強く頑張っている取組状況を（可能な範囲で）情報提供して頂きたい。 ・不登校生の減少に向け他校の取組対策なども踏まえて、今後も頑張ってもらいたい。 ・意識調査の結果では、生徒、教師、保護者ともに80%になって概ね良好状態にある。実際に生徒が自己肯定感をもって教師に積極的に相談したり生徒同士の仲間づくりにつながる話合いができたなど好感もてる雰囲気づくりが望まれる。生徒相互の力を生かした不登校生徒を解消する対策づくりが今後強く求められていると考える。 ・教師が「あまりそう思わない」が12%、どうしてそう思わないのでしょうか?教師が時間等確保できないのであれば、検討すべきではありませんか?・9か年の人間のつながりのなかで、いじめ等のトラブル、又は不登校生の存在があると思います。問題への迅速な対応はもちろん、専門機関の活用など積極的に行ってほしい。
	人権教育や道徳教育の充実を図り、健全な心の育成に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『マナーや校則などルールを守ることが身についているか』『周りの友達に対して優しく接することを心がけているか』が85%以上である。	・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。 ・全校で講話や学習会を盛り込み、思いやりのある学級集団作りのためにQ-Uの結果も活用していく。	3		アンケートによると、3・4段階は約95%という肯定的回答が得られた。学年を通して人権教育や道徳教育を工夫して行い、指導をすることで向上が図れていると思うが、一部生徒には人を傷つけるいじめのような場面も見受けられるので、今後も厳しく指導していきたい。また、学級集団作りのために、Q-Uを1学年は2回実施しているため、さらに指導の手立てを工夫していきたい。		・いじめについての生徒、先生方の取組はとても良い。 ・「マナーや校則などルールを守ることが身についている」生徒や「周りの友達に対して優しく接することを心がけている」生徒が多くて素晴らしい。ただ、「そう思わない」生徒がいるのも残念であり、健全な心の育成をより一層図っていただきたい。人を傷つけるいじめに発展しない場合には、学校と家庭が連携した厳しい指導をお願いしたい。 ・本校は日ごろから人権教育や道徳教育の充実が図られていることから、生徒の意識、教師や保護者の意識において高い数値の調査結果が出ており素晴らしい。日頃の教師指導による効果があがっているものと考え。なお、個々の生徒の集団における存在位置をしっかり分析して学級集団の人間関係づくりに生かし、いじめや不登校対策につながるようになるよう切に望みたい。 ・継続をお願いしたい。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
体育・食育・健康教育	健康に対する関心を高め、健康で安全な生活を送ろうとする実践力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 立腰指導徹底100%を目指す。 新体力テストの上体起こしで県平均を上回る。 健康教室出席率85%を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習部と連携し、授業前の立腰指導を徹底する。 新体力テストの結果を部顧問に配付し、基礎体力向上に活用してもらう。 PTAの保体部会等で積極的に呼びかけを行う。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学習部と連携し、授業前の立腰指導を生徒が主体的に行った。集会では教員が立腰の意義など指導した。 体力テストの結果を元に授業で体力向上のための補強運動を行った。部顧問と資料活用の時間が十分に取れなかった。 保体部会で積極的に呼びかけることができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 立腰は生徒と先生で評価が違うようです。 健康に関心をもたせるためにも部活動の加入率を上げる必要があると思う。そのためには、保護者への理解も必要のため、入学式当日や4月の土日のどちらかで保護者を含めた部活動紹介を実施するなど工夫が必要だと思う。 平成29年度の新体力テストの結果考察より男女の総合評価結果は、男子と女子とではかなり大きな体力の差がみられる。本校で現在取り組まれている立腰指導や健康教室をはじめ諸々の対策を充実させ成果を早急に上げる必要がある。体力テストを見据えた体力強化を図るため部分的にどのように日常指導を行う必要があるか早急な対策が求められる。 継続をお願いしたい。 立腰指導は小学校から取り組まれているようですが、1、2の段階の生徒がいます。意識して具体的に実践する場面を学校でも多く設けてほしい。
	朝食100%摂取、給食の残食ゼロを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 朝食アンケートで朝食摂取100%を目指す。 給食の残食調査において、残食0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの課題として、「元気の出る朝ごはんを作ろう」を提出させ、意識づけを行う。 夏休みにクッキングイベントを実施する。 給食委員会の取組で給食準備時間を早くし、食べる時間を確保する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの課題として「食事作り」や「クッキングイベント」には多くの生徒が取り組むことができ、特にクッキングイベントについては、保護者からも好評であった。 給食委員会の取組で、5分でコンテナ室に到着や残食0コンテスト等を行ったが、残食0になることはあまりなかった。 朝食を毎日食べる、ほぼ毎日食べる生徒が95%いた。朝食を摂っていない(評価2・1)生徒が19人いることがわかった。 	3 3 3.5 3 4 3 3 3 3	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を摂っていない生徒の19人が、なぜ食べていないのか気になります。 毎朝昼食摂取を100%を目指すためにも、各家庭への朝食の必要性について周知を図る必要があると思う。今後夏休みの課題として「食事作り」や「クッキングイベント」に取り組んでいただきたい。 食育指導は、人間が生きていくうえでの根幹に係ることである。また、将来を生きる生徒にとっては、日々の学校・家庭・地域の諸活動の基となる重要な教育活動である。従って、朝食をはじめ一日の食事の大切さを真に理解させる多面的・総合的・継続的な方策を適切に講じて一人の生徒も落ちこぼすことなく成果を上げるよう努める必要がある。「ワーキングイベント」はとて評価できる取組である。 家庭との連携をお願いしたい。 生活が豊かな時代に育った生徒たちが残食0は難しいなど思っています。しかし、残食はどんな内容の時多いのか給食センターと連携は取っておられると思いますが、朝食の意義は徹底して指導してほしい。
	弁当の日の実践をとおして、食に対する関心と感謝の心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の生徒が作るお弁当の日を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科の時間に1,2年生は地域の食材を使った弁当作りを実施する。 食育指導を段階的に行い、実践項目のレベルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科の時間に1,2年生は地域の食材を使った弁当作りを実施する。 食育指導を段階的に行い、実践項目のレベルアップを図る。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のお弁当の日を実施することはできた。 実践項目のレベルアップを図られたかは個人によって差があったが、実践項目に全く〇がつかない生徒はほとんどいなかった。 地域の食材を使った弁当作りは1・2月に実施する。 	3
安全意識を高め、行動できる力を育てる安全教育を推進する。(避難訓練の工夫、危険予測学習等)	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練年2回、シェイクアウト訓練年4回、交通安全教室年1回を行い、全生徒の安全・防災意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全・防災に関する訓練を計画通り着実にを行うことで日頃から地震・津波その他の危険に対して備える。 いろいろな場面における危険を予測し回避する力を育てる安全教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全・防災に関する訓練を計画通り着実にを行うことで日頃から地震・津波その他の危険に対して備える。 いろいろな場面における危険を予測し回避する力を育てる安全教育を行う。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は年2回とシェイクアウト訓練はこれまでに2回実施し、生徒の防災意識を高めることができた。 シェイクアウト訓練の残り2回は2月までに実施予定である。 	3	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり主催の防災訓練にたくさんの生徒の参加があり生徒の防災意識は高くなっていると思います。 安全意識を高めることは、非常によいことで今後も訓練を継続していただきたい。避難訓練やシェイクアウト訓練などの状況をホームページに掲載し保護者や地域に情報を発信すると取組状況が分かりやすい。 地震防災訓練に係るシェイクアウト訓練は南海トラフを想定した重要な防災訓練方法の一つとして大変評価できる。生徒の防災意識を高めるための訓練を継続して行うことにより適格に醸成することができる。くり返しの訓練実施と指導が大切であると考えます。そしてこのことが、日常における安心・安全のところがけにつながると思われる。 継続をお願いしたい。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定 指標別 総合	結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
学校環境整備充実	授業等において地域人材の積極的な活用を図る	・地域人材100%活用を目指す	・保護者や地域への情報提供を確実に、日程の確認と参加への呼びかけを行う。 ・アンケート用紙を作成し、終了前に記入してもらい、結果分析と課題をさぐる。	3	家庭科の授業において、裁縫の実習や調理実習の中で、地域人材を活用し効果的に実施できた。 また、職場体験学習では、地域の事業所を活用することができた。		<ul style="list-style-type: none"> ・大変良かったです。 ・職場体験学習で地域の事業所を活用するなど地域人材の積極的な活用は素晴らしいことなので今後も継続してください。 「方策、手立て」アンケートを記入することになっているが、結果はどうなっているのかわからないのが残念である。 ・地域や地域以外の外部の人材を積極的に活用されて、学校教育のねらいを効果的に結果を出されていることは大変素晴らしい。このことにより、生徒の学びの広がりが、多面的・総合的になり、より一層の教育成果が期待できる。 ・継続をお願いしたい。 ・地域の人材をもっと活用してください。 ・中学校でも「安井息軒」について学習してほしいと思います。指導者は、顕彰会に入っていられっしやる方がおられます。
	学校ホームページや学校だより等を活用し、地域への情報発信を行う。	・保護者アンケートで、「ホームページを見る、学級通信・学校便りを読む」が90%以上。	・学校ホームページを定期的に更新し、学級通信を毎週、学年通信や学校便り、保健便りを毎月発行する。 ・通信ファイルを活用し、保護者との情報交換を行う。	2	学校便りや保健便りは月1回発行することができ、地域や保護者に学校の様子を知らせることができた。学級通信はほとんどの学級が定期的に発行することができた。ホームページは、行事ごとに更新するなど、今後も情報を発信していきたい。		<ul style="list-style-type: none"> ・大変良かったです。 ・年度後半は、ホームページの更新が頻繁になり保護者や地域への情報発信ができていた。 ・各月の行事予定（下半期）の入力がなかったのが残念であった。 ・学校と保護者と地域が一体となって、生徒を見守り育てていくために情報発信は大切なことである。ホームページを更新作業する先生方にはご苦労かけますが、情報発信をお願いしたい。 ・学級通信、学校便りは年間を通して充実していた。 ・学校経営全般にわたり、保護者や地域住民に的確な情報を開示することは極めて大切なことである。今後とも、本校経営すべてに係る教育情報を適切に整理しあらゆる手段を活用して、提供することは開かれた学校づくり及び学校評価にもつながり、学校成長・発展が期待できる。 ・学校ホームページをスマートフォン対応も検討してもらえませんか？ ・地域で学校だよりが閲覧できるともよいと思います。
	学校関係者評価を活用し、学校運営の改善に努める。	学校関係者評価委員会を計画的に行い、評価委員の方々の意見を伺う機会を多くもつ。	・学校行事（入学式、体育大会、文化発表会、立志式、卒業式等）への参観を依頼し、評価委員の方々に学校の様子を見ていただく機会をもつようにする。	3	計画的に学校関係者評価委員会を実施することができた。いろいろな学校行事等に来られた時に意見を伺うことができ、今後の取り組みの参考になった。		<ul style="list-style-type: none"> ・大変良かったです。 ・学校関係者評価委員に案内状を出すことで学校行事への参加がしやすくなり、生徒たちの様子も見学することができた。今後も計画的に案内していただければ学校を参観したい。 ・自校の学校経営や教育指導全般にわたって自己点検、評価項目を設定して適正に自己点検評価されたものを学校関係者評価委員によって複数の視点により貴重な意見と評価を貰う「知見の活用」（第三者の意見）は、とてもよい制度であり、教育の大きな成果につながると考える。 ・継続をお願いしたい。
	地域の関係諸機関と連携した学校運営を推進する。 (まちづくり協議会、青少年育成協議会、加納中協力者会等)	・地域と一体となって学校づくりを行うため、会合や協議会等に積極的に参加する。 ・地域へのボランティア活動に生徒会を通じて全校生徒の60%参加を促す。	・加納地区まちづくり協議会、青少年育成協議会、民生児童委員協議会、等との連携を深める。 ・地域のボランティア活動の内容について職員が理解し、生徒への参加を促す。	3	各協議会と連携しながら、地域の行事等にも積極的に参加することができた。また、八重川の清掃や清武祭りなどのボランティア活動も熱心に参加し活動することができた。今後も地域と一体となった活動を推進していきたい。		<ul style="list-style-type: none"> ・8月の八重川の清掃には参加なしでした。 ・中学生がまちづくり協議会主催の「八重川清掃」や清武地区体育主催の「すもう・長縄とび大会」などのボランティア活動に積極的に参加し役立てる。今後もより多くの生徒が地域活動へ参加することをお願いしたい。 ・まちづくり協議会、学校、PTA(小学校・中学校)の一同が集まった会議(年間計画打合せ)を年度当初(又は年度末)に開催してみてはどうか。あいさつ運動、八重川清掃、避難訓練等・本校は開かれた学校づくりに努められ、地域に根付いた素晴らしい学校経営ができていますと評価できる。特に、地域のボランティア活動や関係諸機関と連携を密にして、幅広く、奥の深い教育指導を推進されていることは、とても素晴らしいと考える。今後は、継続されて、一層の成果につながるように期待したい。 ・継続をお願いしたい。 ・地域の行事またボランティア活動によく参加されていたと思います。今後もよろしくお願いします。